

第35停泊所

2026年5月 22日
責任者: 山口 明日波
編集者: 武井 直人
阿部 翔太
波紫 圭



第46回青年部活動家労働講座

4月19日〜20日にかけて、第46回青年部活動家労働講座を箱根路開雲で開催してきました。今年度は、10年ぶりの宿泊での開催となり、各地連の代表15支部25名の仲間と基本組織より多田委員長・坂部副委員長・渡辺副委員長に参加していただき、2日間に渡り『学習と交流』を図ってきました。

初日の講演では、1部として多田委員長より年間を通じての交渉の流れや種類、地方公務員法について話がありました。普段、本部や各支部において、どういった交渉・事務折衝が行われているのか、臨むうえで大切になる知識を全体で学ぶことができました。2部では渡辺副委員長より、資料を参考にしながら担当している労働条件調査局の役割や闘う方法の構築について話がありました。その中では『今が正解』ではなく、その時代に合った闘いを展開してほしい、その力が東京清掃にはあると伝えられました。

その後の分散会では、新たな取り組みとなる『模擬事務折衝』に向けて、各グループ職場実態を共有しながら、要求内容を策定し、模擬事務折衝に臨みました。参加された皆さんはどうでしたか？アンケートを見ると「要求を通すことの難しさを知った」「将来に向けて良い経験になった」「知識を蓄えておく重要性を感じた」など様々な意見がありました。参加者同士で何を要求するべきか、その要求の根拠を真剣に話し合っている様子が伺えました。坂部副委員長からの講評でも「初の経験だったと思うが、各グループしっかり考え、反論にも対応しようとする姿勢を感じる事ができてすくよかったと思う」といただきました。久々の宿泊での取り組みとなりましたが、切り替えをしつかりしながら良い取り組みになったと思います。引き続き、様々な企画を模索しながら活動していきたいと思っておりますので、青年部の皆さんこれからも共に学び、交流しながら組織強化を図っていきましょう！

【模擬事務折衝の様子】

(講評する坂部副委員長) (模擬事務折衝に向けての話し合い)



災害ごみの仮置き場
増設を要求します！

夏季手当を
要求します！

予算がなくて・・・
住民の理解も必要です。



★統一交渉の種類って何があるの？

- ・団体交渉(統一交渉項目について、交渉委員と清掃労組の間で行う「適法な交渉」)
- ・小委員会交渉(団体交渉のもとにおいて委任された交渉項目について、交渉委員から指名された者と清掃労組で比較的重要な交渉事項について行う協議)
- ・専門委員会交渉(団体交渉のもとにおいて委任された交渉項目について、交渉委員から指名された者と清掃労組で専門技術的な交渉事項について行う協議)

・事務折衝(交渉を必要とする事由が発生した場合に交渉内容の整理・予定日や時間等について折衝する)





第35停泊所

2026年5月 22日
責任者:山口 明日波
編集者:武井 直人
阿部 翔太
波紫 圭

メーデー君、ふたたび。

97th日比谷メーデーin亀戸中央公園に取り組むにあたり、4月28日に事前学習会を開催し、70名と多くの仲間が参加しました。

山口青年部長より「メーデーくん」をテーマに学習会がスタートされ、そもそもメーデーってなんやねん？から始まりました。

もともとメーデーとはヨーロッパで夏の訪れを祝う日で、それが労働者の祭典という意味を持つようになったのは、1886年5月1日にアメリカのシカゴで起こったゼネラル・ストライキがきっかけであり、メーデーは労働者たちが権利を主張する日として位置づけられたと説明された後、メーデーの意味について講演がありました。



講演では、ゼネストの意味や今回亀戸になった理由、作業着着用の意味、日比谷メーデーとメーデー中央大会の違い、メーデー中央大会に参加しない理由などの説明があり講演が終了しました。

また、講演の途中では突如、メーデーくんの乱入!?まさかのハプニングもあり...と、笑いのある場面と真剣に講演を聞く姿が見受けられ、メリハリのある学習会となりました。

また、メーデー当日にテモ行進を貫徹するため、学習会の中でシュプレヒコールの練習時間を設け、当日のイメージを参加者と確認しました。

👉 仲間の声



10年後、20年後も同じ熱量で続けていく事が大切だと感じ、その為にも1回1回やっていく事が必要だと感じました。学習会に初めて参加して、メーデーがどのようなようにしてきたのか知れたと同時に、和やかな場面と真面目な場面を感じ背筋が伸びました。当日は真剣に取り組みたいです。

過去に学習会に参加したことがあったが、イマイチどういう活動をしているのかは知らなかったため、今回の学習会を通じて初めて知る事ができたので、とても勉強になりました。

メーデーという言葉は知っていたが、メーデーの起源は知らなかったのを知る事ができてよかった。世界の80ヶ国以上がメーデーを祝日として驚いた。現在物価高が進む日本で労働者たちが権利を主張することはとても大事な事であると感じた。

今ある8時間労働もあたりまえのものではなく、過去に異議を唱えた方々の主張と犠牲によって得られたものだと分かった。少しでも力になれるように頑張っていきたいです。

第35停泊所

2026年5月 22日
責任者:山口 明日波
編集者:武井 直人
阿部 翔太
波紫 圭



97th日比谷メーデーin亀戸中央公園では、青行隊に86名の多くの仲間が集結しました。

例年は日比谷野外音楽堂での開催ですが、修繕工事で会場が使えないため、今回は初となる亀戸中央公園にてメーデーが開催されました。

式典の冒頭挨拶では、実行委員会を代表して渡邊全労協議長より、社会や政治情勢の問題点を提起し、労働時間規制緩和方針を断じて許さないと強調されました。また、「最低賃金」「労働法制」「外国人労働者問題」「反戦・平和」などの各分野からアピールがあり、式典終了後には多田委員長長の「団結がんばろう」にて、参加者全体で共に働きやすい社会の実現に向けて意思統一をしました。今年のメーデーでは、大雨の影響でデモ行進が中止となる異例の事態や受付の変更とイレギュラーなことが起こったメーデーとなりました。

改めまして、今回参加してくれた仲間の皆さん、ありがとうございました！

メーデーに限らず『労働者』としての様々な取り組みを通じてこれからも声をあげていきましょう！

